

各位

上場会社名 東山フィルム株式会社
 代表者 代表取締役社長 松原 茂
 (コード番号 4244)
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長兼財務部長 腰丸敏雄
 (TEL (052)736-2273)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年11月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,879	△321	△319	△171	△46.02
今回発表予想(B)	5,919	△375	△382	△514	△137.88
増減額(B-A)	40	△54	△63	△343	
増減率(%)	1.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	6,268	△283	△350	△264	△70.91

平成21年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,301	△370	△357	△225	△60.53
今回発表予想(B)	5,386	△405	△392	△530	△142.14
増減額(B-A)	85	△35	△35	△305	
増減率(%)	1.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	5,610	△351	△362	△277	△74.30

修正の理由

平成21年12月期第4四半期の業績を踏まえ、11月12日に公表した通期の連結業績予想数値及び個別業績予想数値を修正いたします。

売上高につきましては、タッチパネル用ハードコートフィルム、工業用印刷フィルム、電子部品加工用セパレートフィルムが韓国・台湾・中国を中心とする東アジア市場において増加が見込まれ、前回予想より40百万円増加し59億19百万円(個別85百万円増の53億86百万円)となる見通しです。

営業損失・経常損失につきましては返品等の理由による不良在庫の評価損50百万円を原価算入することにより、前回予想より営業損失は54百万円増加し3億75百万円(個別35百万円増の4億5百万円)、経常損失は63百万円増加し3億82百万円(個別35百万円増の3億92百万円)となる見通しです。

当期純損失につきましては繰延税金資産の取り崩しのため法人税等調整額が1億13百万円発生したことにより、前回予想より3億43百万円増加し5億14百万円(個別3億5百万円増の5億30百万円)となる見通しです。

また、これに伴い平成21年2月13日に公表いたしました中期経営計画の平成21年12月期の数値目標も今回発表数値に変更いたします。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります

以上